

2017 年度

町田市 市民協働による生きもの調査
ツバメの巣探し調査 結果報告書



町田市

環境資源部 環境・自然共生課

はじめに

ツバメの巣の主な材料は、泥と枯草です。また、ヒナにエサとして与えるために捕まえる虫の数は、1日数千匹近いといわれています。ツバメが巣を作り、子育てをするためには、一定の自然環境が必要です。またツバメは、カラスやヘビなどの天敵からヒナを守るために、人間を利用し、人家の軒先等に巣を作るものと考えられています。そのため、ツバメの巣がある場所は、緑がある程度残り、その中に住宅があるような環境と言えます。

しかし、近年のアスファルトで固められた都市環境では、巣材として使えるような泥の確保が難しく、虫の数も十分ではない場合が多く、ツバメの巣は減少傾向にあるといわれています。都市部では全国的に減少傾向にあるといわれるツバメの巣ですが、町田市域においては、どのような状況にあるのか、5月から6月にかけて調査いたしました。

今回の調査では、総勢52名の調査員の方に、町田市内でツバメの巣を探していただき、全3種類、160個の巣が見つかりました。

その結果、わかったことをこの報告書にまとめましたので、ぜひご一読ください。

目次

1. 調査概要・・・1
2. 調査結果・・・3
3. ツバメ分布メッシュマップ・・・7
4. 調査票備考欄より・・・10
5. 参加者の声・・・11
6. 総括・・・13

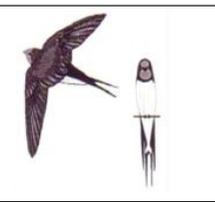
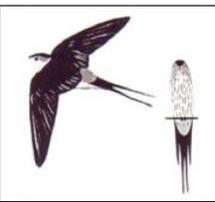
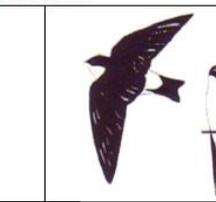
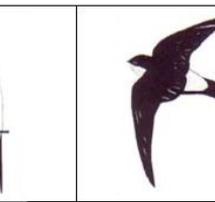
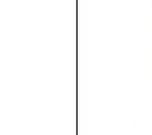
1. 調査概要

1) 調査目的

都市部では全国的に減少傾向にあるといわれるツバメの巣が、町田市域においては、どのような状況にあるのか、分布状況と子育て状況を調べる。

2) 調査対象

「ツバメ」「コシアカツバメ」「イワツバメ」「ヒメアマツバメ」の4種類

種名	調査対象種			
				
	ツバメ(ツバメ科)	コシアカツバメ(ツバメ科)	イワツバメ(ツバメ科)	ヒメアマツバメ(アマツバメ科)
種の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・もっともよく見かける種 ・ノドとおでこが赤く、尾が長い ・おなかが白い 	<ul style="list-style-type: none"> ・腰と目の後ろ部分が赤茶色で尾が長い ・ツバメよりもやや大きく、ゆったりとぶ ・おなかと胸にあわい縦斑がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・腰の部分が白く、尾が短い (ヒメアマツバメとの区別の方法) ・お腹が白い・羽が短い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノドと腰の部分が白く、尾が短い (イワツバメとの区別の方法) ・お腹が黒い・羽が長い
巣の形				 他のツバメの巣を利用した場合
巣の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・商店や住宅の軒下、歩道橋、駅などの人工構造物に作る。 ・1つの建物に1～数個 ・材料は泥と枯草 ・昨年の巣を補修して使う場合がある ・お椀型 	<ul style="list-style-type: none"> ・人工構造物に作る。 ・木造の建物よりもモルタルやコンクリートの大きな建物を好む傾向がある。 ・材料は泥と枯草 ・とっくり型 	<ul style="list-style-type: none"> ・本来は岩壁に作るが、最近は山小屋、橋、都会のビルなどの建造物にも集団で作っている。 ・材料は泥と枯草 ・お椀型 (ツバメと比較して出入り口が狭い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・イワツバメやコシアカツバメの巣を奪ったり、古巣を利用することが多い。 ・自分でお椀型や筒状の巣をつくることもある。 ・出入り口に枯草や羽毛をつける。
鳴き声	・チィチュロリ、チュリチュリ、ジュリリ	・ジョイジョイ、チュリチュリイ、ジョイジョイ (太く濁った声)	・ジュリジュリ、ビィビィ、ジュリジュリ (早口で濁った声)	・チィーチィー(とまっているとき) ・チュリリリ、チュリリリ

出典：「H26年度 相模原市環境情報センター H26年度 相模原市自然環境観察員制度年次報告書」,相模原市立環境情報センター,2015,p110

3) 調査期間

5月22日(月)～6月15日(木)

4) 調査範囲

町田市内全域(102メッシュ中49メッシュで調査を実施)

5) 調査方法

町田市では今回の調査にあたり、国勢調査などの統計をとるために国が定めた1kmごとの区域「基準地域メッシュ」ごとに調査を行うことにした。(ツバメの分布を示したメッシュ図は7~9ページを参照)

市民の調査員を募集し、町田市内102メッシュのうち、調査員が希望した箇所を含むメッシュの地図を調査員へ送付。

5月22日(月)から6月15日(木)までの期間、調査員には地図の範囲内でツバメの巣を探していただいた。

ツバメの巣を確認したら、1つの巣につき1枚、調査票を記入し、地図上の発見地点に×印と調査票No. を記入。

調査票記入例

メッシュ番号 0000 調査員 **町田 花子**

※ 当てはまる番号に丸をつけてください。

① No.	② 日付	③ ツバメの種類	④ 建物の種類	⑤ 子育て状況(複数選択可)	⑥ 人間による補助	⑦ 備考
1	5月25日	① ツバメ 2. コシアカツバメ 3. イワツバメ 4. ヒメアマツバメ 5. 不明	① 一軒家 2. 学校 3. 商店 4. マンション・ビル 5. 橋・歩道橋 6. その他()	① 幼鳥が見える ② 親鳥が出入りしている 3. 使われていない古巣 4. 利用状況がわからない	① 巣の支え 2. ふん落下防止 3. 補助なし 4. その他	ビオだちが、親鳥に餌をねだっていた。



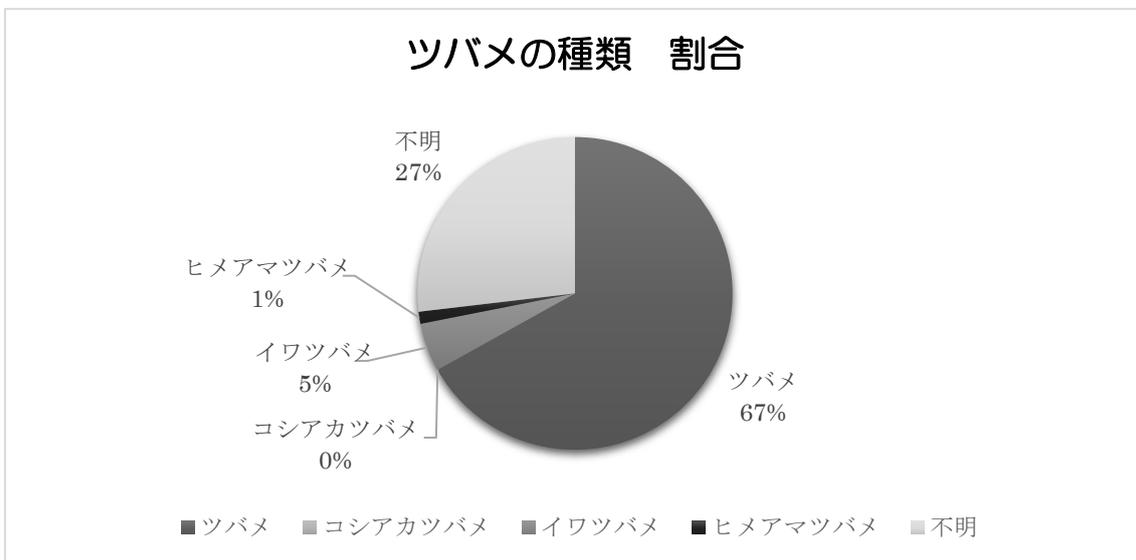
2. 調査結果

メッシュ内訳

調査メッシュ数	49
巣を確認したメッシュ	39
未確認メッシュ	10
未調査メッシュ	53
合計	102

巣の数

ツバメの種類	確認した巣の数
ツバメ	107
コシアカツバメ	0
イワツバメ	8
ヒメアマツバメ	2
不明	43
総計	160



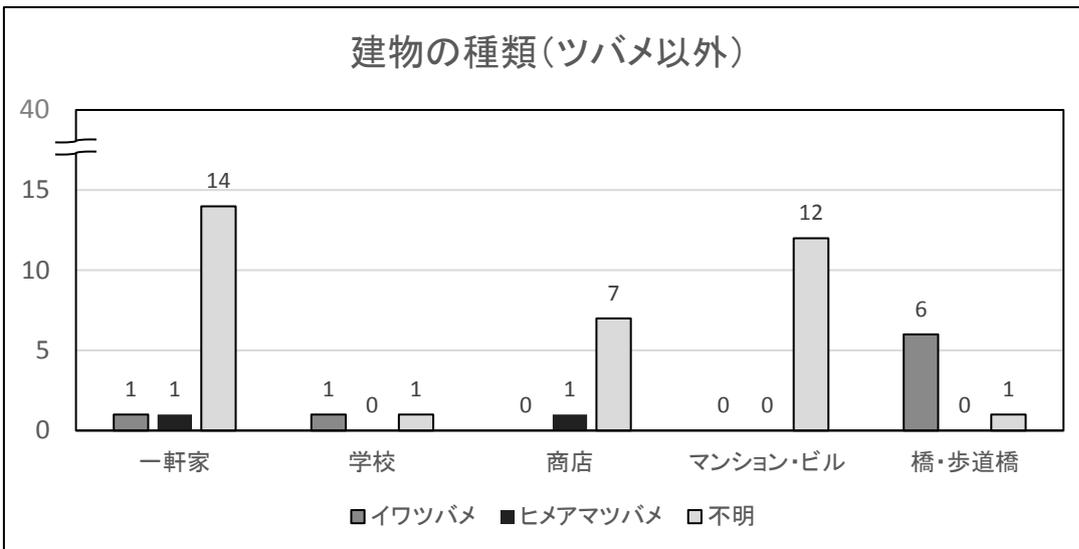
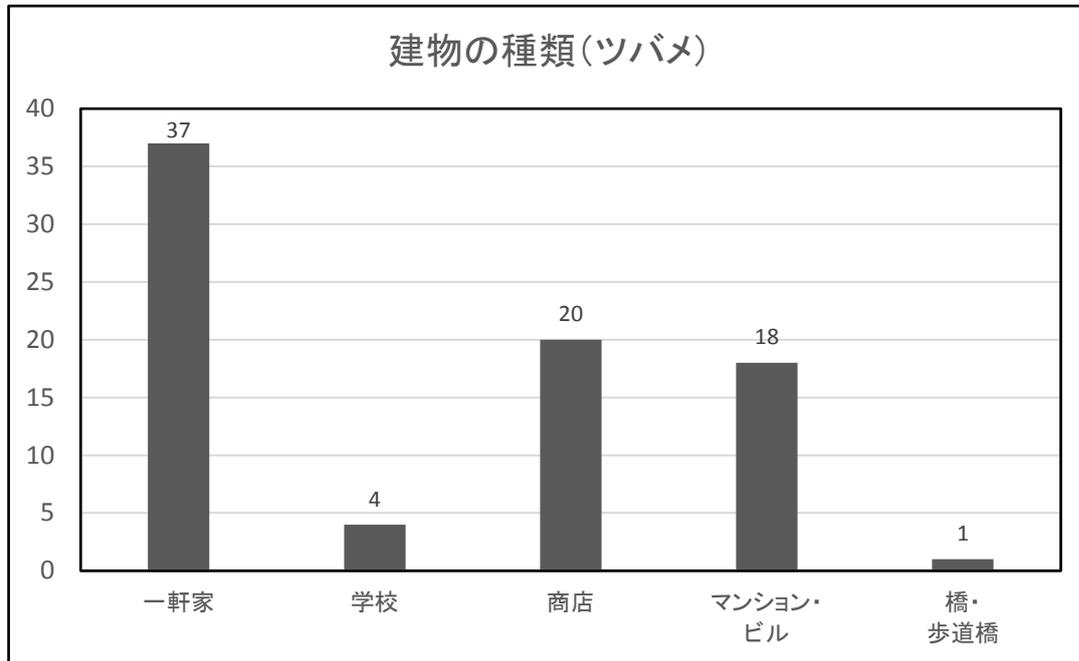
【調査の結果わかったこと】

見つかった種類の中ではツバメが多かったが、イワツバメおよびヒメアマツバメの営巣も確認された。

建物の種類

ツバメの種類	一軒家	学校	商店	マンション・ビル	橋・歩道橋	総計
ツバメ	37	4	20	18	1	80
イワツバメ	1	1	0	0	6	8
ヒメアマツバメ	1	0	1	0	0	2
不明	14	1	7	12	1	35
総計	53	6	28	30	8	125

※調査シートの「その他」、未記入は省略



【建物の種類についてわかったこと】

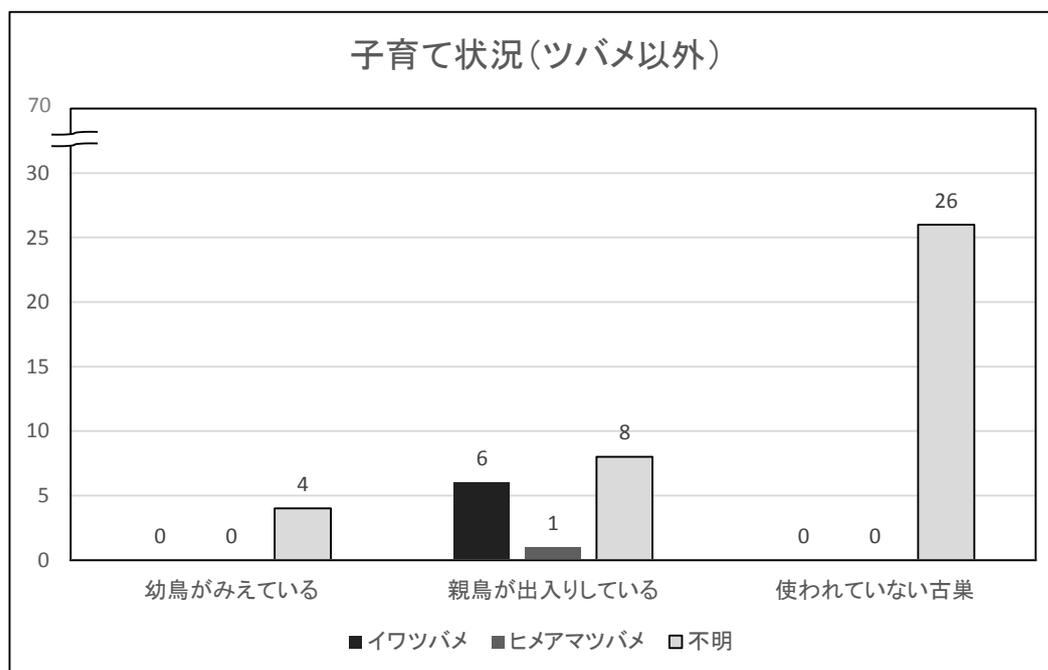
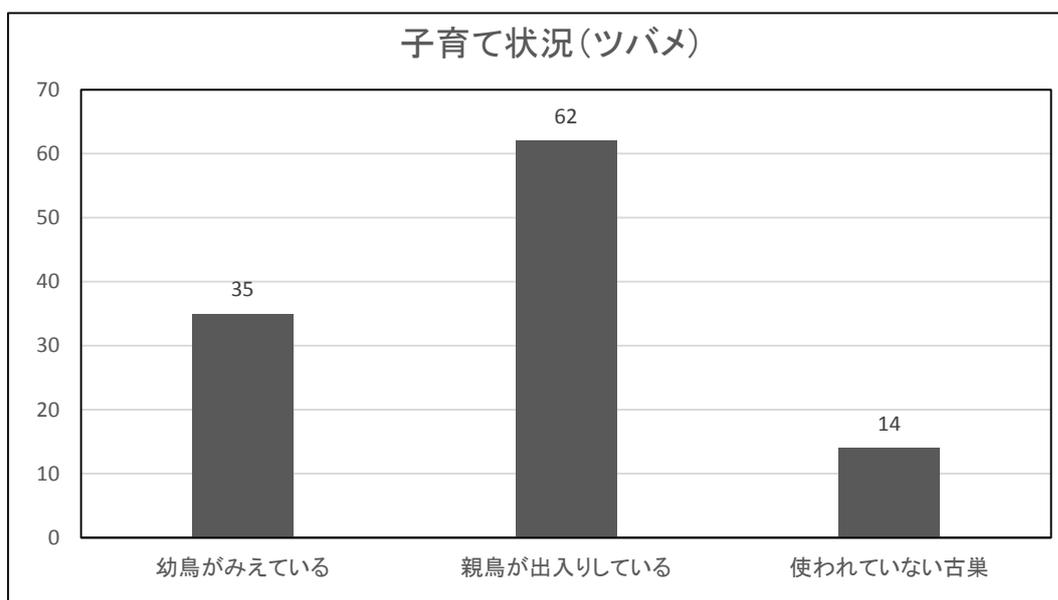
種類によって好む環境が異なる可能性がある。

たとえば、ツバメは一軒家、商店、マンションなどに巣を作るが、イワツバメは橋や歩道橋などに作ることが多い。

子育て状況（複数回答あり）

	幼鳥がみえている	親鳥が出入りしている	使われていない古巣	総計
ツバメ	35	62	14	111
イワツバメ	0	6	0	6
ヒメアマツバメ	0	1	0	1
不明	4	8	26	38
総計	39	77	40	156

※調査シートの「利用状況がわからない」、未記入は省略



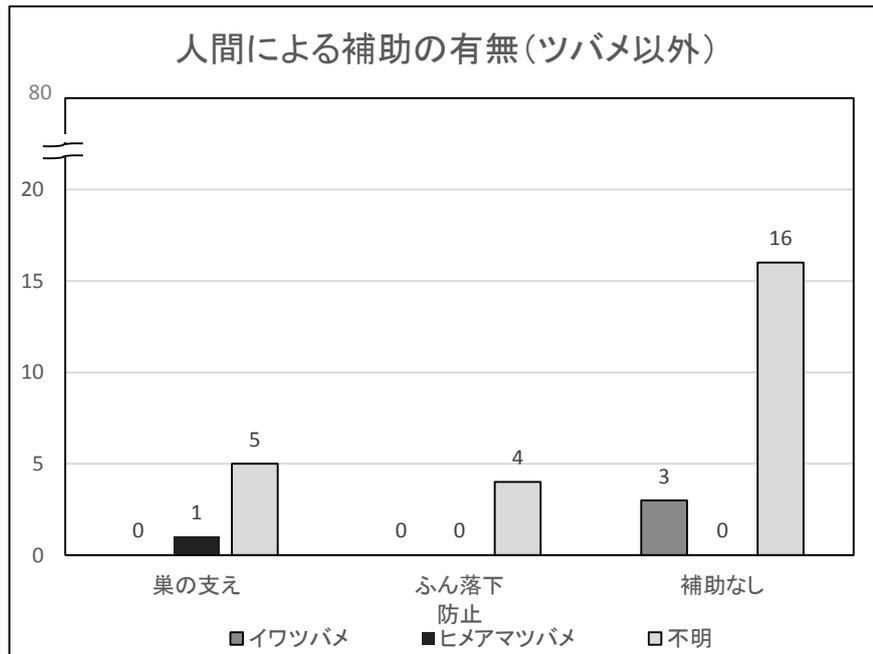
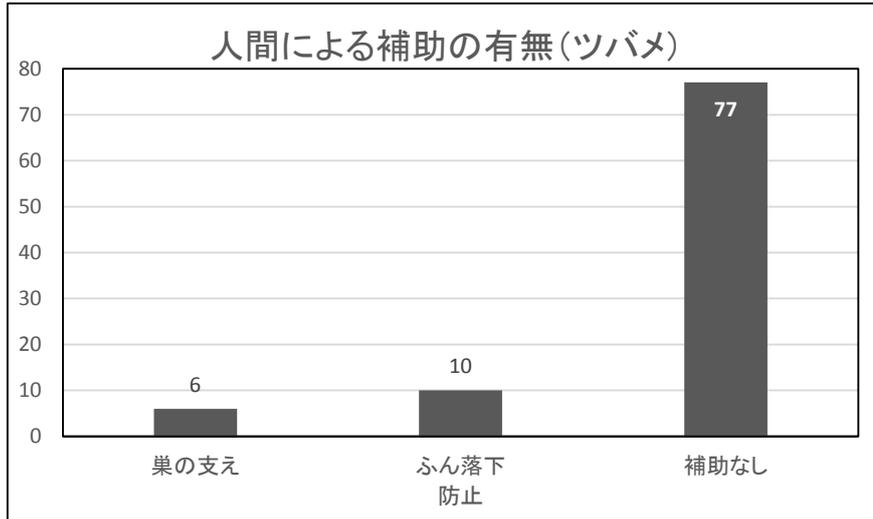
【子育て状況についてわかったこと】

ツバメの巣の約6割で親鳥の出入りが確認された。種類が不明の巣は、使われていない古巣が多かった。

人間による補助の有無

	巣の支え	ふん落下防止	補助なし	総計
ツバメ	6	10	77	93
イワツバメ	0	0	3	3
ヒメアマツバメ	1	0	0	1
不明	5	4	16	25
総計	12	14	96	122

※調査シートの「その他」、未記入は省略

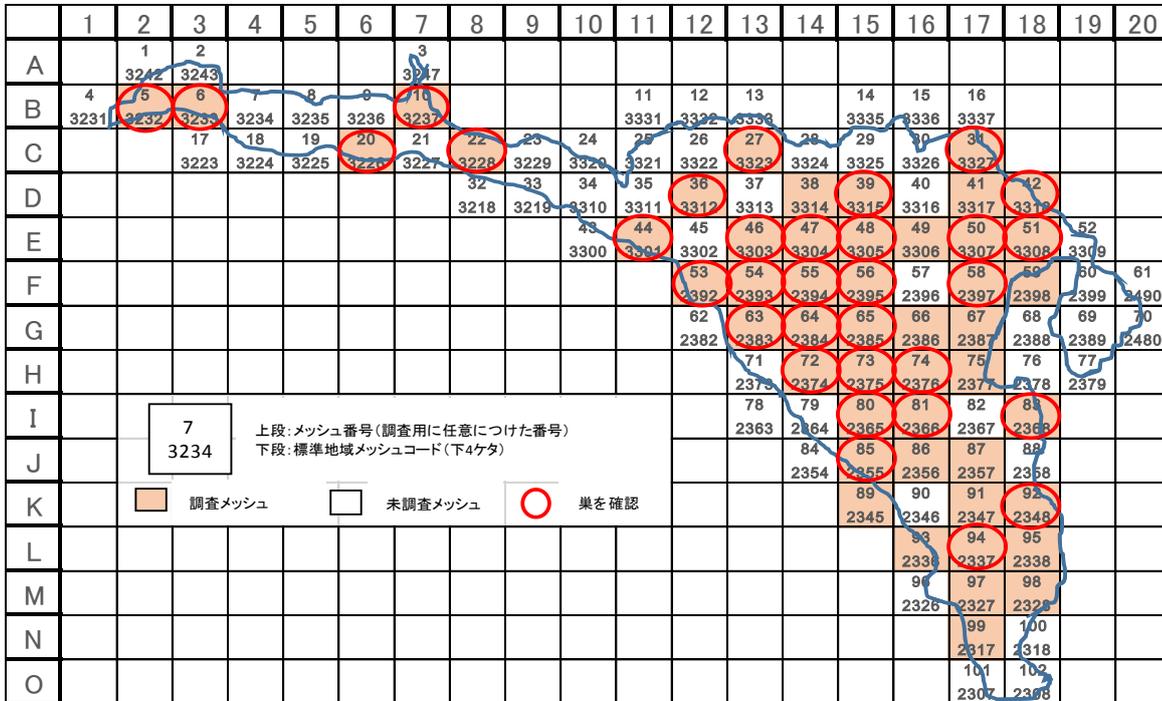


【人間による補助についてわかったこと】
 補助なしの巣が最も多かったが、ツバメ・ヒメアマツバメ・種類不明の巣には、合計12個に巣の支え、14個にふん落下防止がしてあることがわかった。イワツバメの巣への補助はなかった。

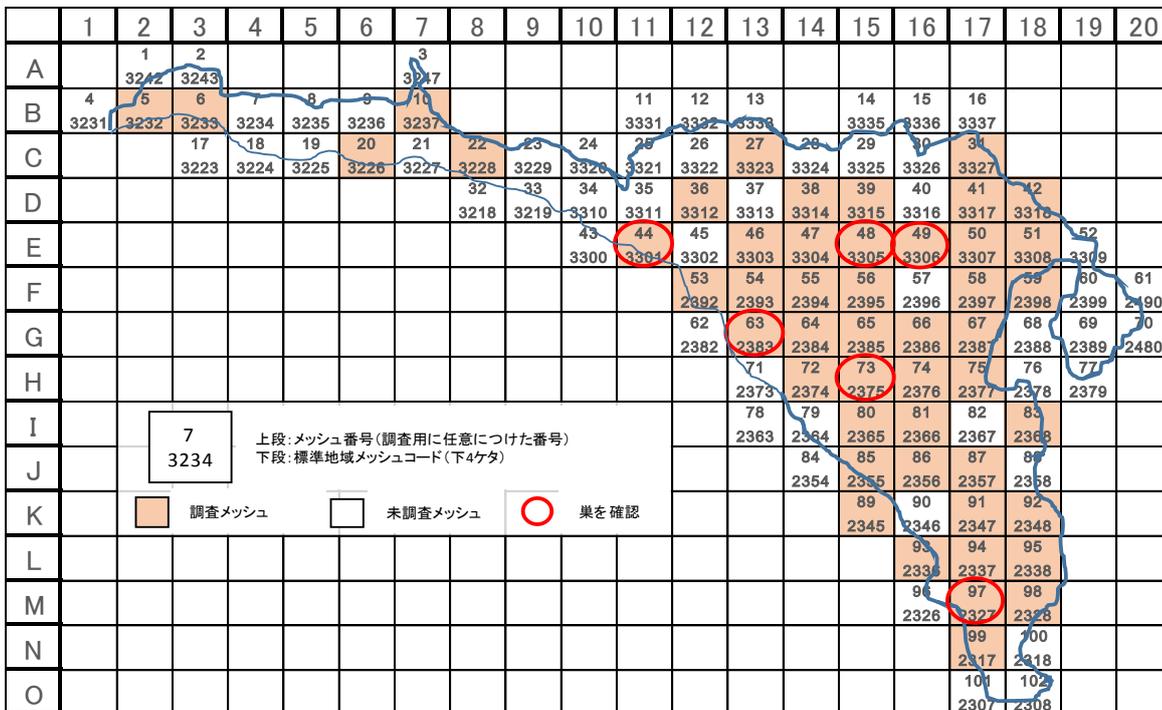
3. ツバメ分布メッシュマップ

…調査メッシュ
 …未調査メッシュ
 …該当メッシュ

ツバメの巣 確認状況 33メッシュ



イワツバメの巣 確認状況 6メッシュ



ヒメアマツバメの巣 確認状況 2メッシュ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
A		1 3242 3243	2				3 3217													
B	4 3231	5 3232	6 3233	7 3234	8 3235	9 3236	10 3237				11 3331	12 3322	13 3338		14 3335	15 3336	16 3337			
C			17 3223	18 3224	19 3225	20 3226	21 3227	22 3228	23 3229	24 3320	25 3321	26 3322	27 3323	28 3324	29 3325	30 3326	31 3327			
D								32 3218	33 3219	34 3310	35 3311	36 3312	37 3313	38 3314	39 3315	40 3316	41 3317	42 3318		
E									43 3300	44 3301	45 3302	46 3303	47 3304	48 3305	49 3306	50 3307	51 3308	52 3309		
F												53 2392	54 2393	55 2394	56 2395	57 2396	58 2397	59 2398	60 2399	61 2490
G												62 2382	63 2383	64 2384	65 2385	66 2386	67 2387	68 2388	69 2389	70 2480
H												71 2373	72 2374	73 2375	74 2376	75 2377	76 2378	77 2379		
I												78 2363	79 2164	80 2365	81 2366	82 2367	83 2368			
J			7 3234										84 2354	85 2355	86 2356	87 2357	88 2358			
K													89 2345	90 2346	91 2347	92 2348				
L														93 2336	94 2337	95 2338				
M														96 2326	97 2327	98 2328				
N															99 2317	100 2318				
O															101 2307	102 2308				

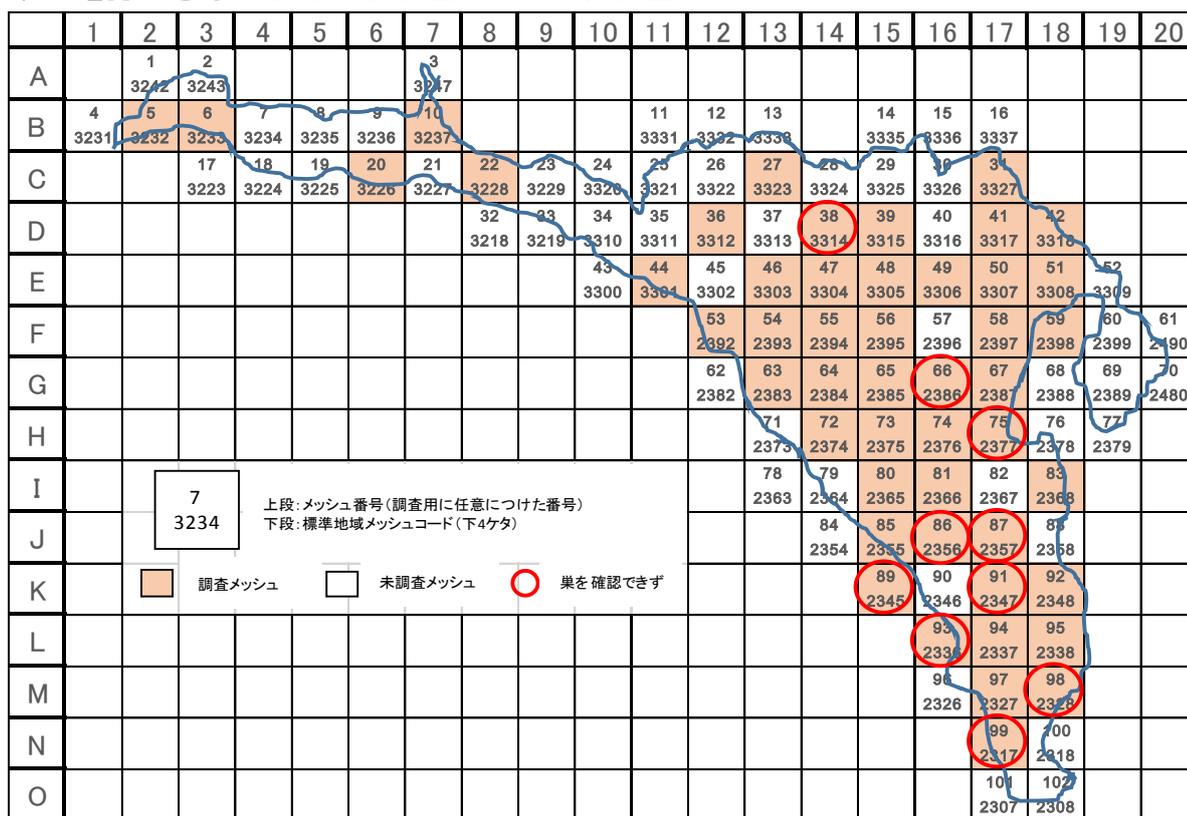
調査メッシュ
 未調査メッシュ
 巣を確認

種類不明の巣 確認状況 19メッシュ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
A		1 3242 3243	2				3 3217													
B	4 3231	5 3232	6 3233	7 3234	8 3235	9 3236	10 3237				11 3331	12 3322	13 3338		14 3335	15 3336	16 3337			
C			17 3223	18 3224	19 3225	20 3226	21 3227	22 3228	23 3229	24 3320	25 3321	26 3322	27 3323	28 3324	29 3325	30 3326	31 3327			
D								32 3218	33 3219	34 3310	35 3311	36 3312	37 3313	38 3314	39 3315	40 3316	41 3317	42 3318		
E									43 3300	44 3301	45 3302	46 3303	47 3304	48 3305	49 3306	50 3307	51 3308	52 3309		
F												53 2392	54 2393	55 2394	56 2395	57 2396	58 2397	59 2398	60 2399	61 2490
G												62 2382	63 2383	64 2384	65 2385	66 2386	67 2387	68 2388	69 2389	70 2480
H												71 2373	72 2374	73 2375	74 2376	75 2377	76 2378	77 2379		
I												78 2363	79 2164	80 2365	81 2366	82 2367	83 2368			
J			7 3234										84 2354	85 2355	86 2356	87 2357	88 2358			
K													89 2345	90 2346	91 2347	92 2348				
L														93 2336	94 2337	95 2338				
M														96 2326	97 2327	98 2328				
N															99 2317	100 2318				
O															101 2307	102 2308				

調査メッシュ
 未調査メッシュ
 巣を確認

巣が確認できなかったメッシュ 10メッシュ



巣を確認したメッシュ数

ツバメの種類	巣を確認したメッシュ数	調査メッシュ中で巣が確認できた比率
ツバメ	33	67%
コシアカツバメ	0	0%
イワツバメ	6	12%
ヒメアマツバメ	2	4%
不明	19	39%

【分布メッシュマップからわかったこと】

- 調査した 49 メッシュ中、ツバメの巣が見つかったメッシュが 33 メッシュと最も多かった。相原、小山、忠生、鶴川、金森など、広範囲にわたり多くの場所で見つけることができた。
- イワツバメは、鶴見川沿い、恩田川沿い、境川沿いなど、必ず河川があるメッシュで発見された。
- ヒメアマツバメについても、河川があるメッシュで見ついている。
- 調査をしたものの、ツバメの巣が見つからなかった地域は市南部の駅周辺であった。南部では 1 種類もツバメ類の巣がみつからなかったメッシュが複数あった。

4. 調査票備考欄より

【団地内ショッピングセンターのアーケード、テント屋根下にて】

眺めていると、通りすがりの人も上を見上げます。いままですぐそこでツバメが子育てをしている事に気がついていなかった人もたくさんいました。大抵の人が笑顔になります。

【運送会社倉庫入口にて】

塩ビパイプの上に巣をつくろうとしているツバメを見ました。（中略）数日後に行ってみると、巣はなく、ツバメの姿もなし。塩ビは滑って土をのせるのには不適切だったのだと思います。下には沢山ツバメが運んで来た土塊が落ちていました。今では巣を作るのに良い場所をみつけるのも難しいのだろうと思うと、申し訳なくなります。

【集団営巣情報】

照明カバーの上に合計7巣／保育園に7巣／郵便局に4巣／体育館入口に合計3巣（地面に三角コーンで注意指示有）／相原の道路沿いに8巣

【カラスの襲撃】

近所の人「ヒナのカラスよけに奮闘した。もう巣立っている」／6月上旬、ヒナがカラスの襲撃にあう

【人間による補助】

巣の支え等はなくとも、見守る・脅かさない・ふんの清掃（毎日）・カラスを追い払うなどの補助を行っている。

最近ツバメの巣をつくりやすいような支えをとりつけたり、人工巣や糞受けを設置したりしている事例も多いようです。自然の営みは自然のままに人が手を出すべきでない、という考え方もあると思います。それでも、彼らの暮らし難さの原因の多くを生んでいるのは人間の引き起こした環境の激変だと思いますし、生き物の暮らしを守ることを考えても良いのではないのでしょうか。何千キロもの旅を乗り越えて帰ってくる、町田をふるさともつツバメたちをも何らかの形でサポートできないものかと思います。

【ツバメの巣調査事業について】

「町田市ツバメの巣探し調査に参加しています」、と言えらると思うと見知らぬ人にも話しかけやすかったです。調査を通してツバメの事はもちろん、知らなかった町田のことやそこに暮らす人たちの事をも知ることが少しだけできました。こうした調査は継続的に、町田の自然、生き物を守る上で役立てられたらいいのではないかと思います。

5. 参加者の声

参加して良かった点

- 空を見上げる機会が増え、ツバメ以外の鳥や虫、天気や環境について意識するようになった。ツバメを通して、普段繋がりのない方と会話する機会と持てた。
- ツバメの生態について謎が深まった。ツバメの巣作り場所の選び方に”？”マークが増えました。（何故ここに作ったのか…等）
- 市民としての参加、協働意識の向上、楽しい体験。
- ツバメの空中旋回。大空をスーッと飛ぶ姿。休むことなく飛び続けている姿に見とれた。
- 巣の形。種類によって形が違うことを知った。
- こどもとじっくりツバメを見るきっかけになったこと。
- こどもから積極的に見に行こうと誘われたことは、とても良かったと思う。
- 散歩を久しぶりにした。
- 去年は巣を見たのに今年は見つからず。生態が変化している事を知れた。
- 一ヶ所も見ることが。飛んでいる姿すら見る事がなく、以前見た印象があり、いつからこうなったのだろうか？と思った。
- 市民科学の雰囲気を知ることが出来た。ツバメについて五感を用いて理解を深めることが出来た。
- 色々な所を探し歩き、自然とふれあう機会が出来た。また、地域の方や友人に声掛け協力をいただき楽しかった。
- こどもたちが市役所（環境・自然共生課）のために、と頑張ることが出来ました。地域の方にインタビューすることも出来ました。

その他ご意見

- 様々な意匠や夏の風物として古くから多く描かれてきた「青空、白い雲を背景に飛ぶツバメ」。身近に子育てをみせてくれるツバメ。そんなツバメのいる風景をずっと残せるようにしたいと、つくづく思いました。こうした調査は一年のみでなく、継続的に行うと意識が高まるのではと思います。
- 成瀬の総合体育館やこどもの国に行ったときにツバメを見かけ、こどもと巣を見つけたりました。こどもがツバメの生態に興味を持ち、近所で探してみると意外にいませんでした。最近、昔のように見かけなくなったと改めて感じ、考えさせられました。
- 初めて参加しました。残念ながら巣の跡だけの発見でした。家の近くでも、あちこち歩いていると色々な発見があり楽しかったです。ツバメの生態もこういう機会がなかったら全く無頓着でしたでしょう。良い勉強になりました。
- 今回、公園の掲示板をたまたま見て急いで参加したので、何も知らずに始まりました。こどもが環境や自然、動物などに興味を持つきっかけとしては、とても良い活動だと思えました。また機会がありましたら参加したいと思っているようなので、また是非よろしくお願いします。事前に申し込み等すれば、詳しい説明などの説明会があるといいなと思えました。
- ツバメの生態から人家の多い所に多いと思えます。
自然が多い所は人家が少ない → ツバメがいない

6. 総括

今回の調査の結果、わかったことがいくつかあります。

まず、ツバメが好んで巣をつくる場所についてです。巣を作る場所として最も多く選ばれているのは一軒家でしたが、その次に多かったのが商店の軒先でした。巣の支えなどを付けて子育てを助けているケースも多く、ツバメが人間の暮らしと共存している様子がうかがえます。ツバメが巣をかける家は栄える、という言い伝えどおり、大切にされている場合も多いようです。

また、イワツバメについて特にはっきりと結果が出たのが、必ず川のそばで営巣をしているということです。川の上は水生昆虫がよく飛んでいるため、エサとしてそれをねらっているのだと思われます。

さらに、集団営巣をしている場所の情報もいくつかいただきました。保育園や郵便局、体育館など、比較的昔からある公共施設に、集団で営巣しているケースが多いようです。反面、調査した中で、巣が見つからなかったメッシュが集中したのが、市の南部の駅周辺でした。

独自で細かなレポートをつけていただいた方も多く、ここで紹介しきれないエピソードもたくさんありました。今回、総勢 52 名の方に調査をしていただき、160 個の巣が見つかりました。市全体 102 メッシュのうち、調査をできたのが 49 メッシュだったため、むらなく全域を調査できたわけではありませんが、平均すると少なくとも 1 メッシュにつき 1 個以上は、ツバメの巣があるという結果になりました。

今後は、数年周期でツバメの巣探し調査を継続し、調査結果がどのように推移していくか、見守っていきたいと思います。

調査に先立ち、2017年5月20日に「ツバメの巣の観察講座」を行いました。その際講師をしていただいた秋山さんからのコメントです。

秋山幸也さん（相模原市立博物館 生物担当学芸員）より

今回、町田市で市民が参加するツバメの巣の調査が行われたことは、市民がツバメをとおして市域の自然を見つめるきっかけ、基礎を作ったということに大きな意味があります。こうした広域的な調査は身近な環境や生きものの生息状況の変化を見ていくためのものなので、1回の調査ではなかなか多くのことはわかりません。それでも今回の調査で、イワツバメの分布傾向や、ツバメの巣が見つからない地域などがわかってきたこと、そしてコシアカツバメが分布せず、ヒメアマツバメが少数営巣していることなど、今後、調査成果を蓄積していくための基盤となる重要な知見が得られました。

今後、何年かのちにまたツバメの巣を調べてみてどう変化しているのか、変化していないのかを知ることが大切です。参加されたみなさんの自然への気づきや、ツバメに対する愛情と関心の深まりがこの調査の最大の成果です。ぜひこれを次の調査への原動力として大切にしていきたいと思います。

2017年度
町田市市民協働による生きもの調査
ツバメの巣探し調査 結果報告書
2017年10月

〒194-8520 町田市森野2-2-22
町田市役所 環境資源部 環境・自然共生課
TEL：(042) 724-4391
FAX：(050) 3160-5220



町田市エコキャラクター